

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【伊都振興局】

重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

～農業技術講習会（果樹コース第4回）の開催～

令和8年8月号

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 令和8年度農家経営及び農作業安全研修会の開催	
2. クビアカツヤカミキリの悉皆調査を実施	
3. 海南市下津町農業士会が県外研修会を開催 ～おいしいみかんづくりのために～	
4. 夏いちご生産農家への巡回指導の実施	
II 那賀振興局	3
1. 農作業安全研修会を開催	
2. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会を開催	
III 伊都振興局	4
重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】	
1-1. ～農業技術講習会（野菜コース第2回）の開催～	
1-2. ～農業技術講習会（果樹コース第4回）の開催～	
IV 有田振興局	5
1. 令和8年度アグリビギナー・有田農業女子プロジェクト合同研修会(みかんの仕上げ摘果研修)を開催	
V 日高振興局	6-7
1. 日高地方4Hクラブ連絡協議会がニューファーマーズ激励会・スポーツ大会・交流会を開催	
2. 印南町農業士会が研修会を開催	
3. クビアカツヤカミキリ防除対策研修会を開催	
4. JAピーマン部会天敵利用報告会で調査結果を報告	
VI 西牟婁振興局	8-9
1. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が扇ヶ浜にて梅干し・うめラッシーPRイベントを共催	
2. 西牟婁の郷土料理教室を開催	
3. いちご炭そ病防除対策研修会を開催	
VII 東牟婁振興局	10
1. サツマイモ「なんたん蜜姫」ほ場の巡回調査を実施	
2. MYNS営農組合(マインズ)が稲刈り体験を開催	

Ⅷ 農業大学校	11
1. 【わかやま農業教育一貫プロジェクト】 ～卒業研究に取り組む学生が県研究機関を訪問～	
Ⅸ 農林大学校就農支援センター	12
1. 令和8年度ウイークエンド農業塾農業入門コース(第2班)開講	

I 海草振興局

1. 令和 8 年度農家経営及び農作業安全研修会の開催

8 月 18 日、和歌山県農業協同組合わかやま地域本部東部営農センター会議室にて、農業士会、生活研究グループ連絡協議会、青年農業経営者協議会、4 H クラブ連絡協議会で構成される和歌山県農業生活連絡協議会（会長：南方一誠氏）と農業水産振興課が共催で令和 8 年度農家経営及び農作業安全研修会を開催した。



熱心に聞き入る参加者

研修会では、和歌山県農林大学校の川原非常勤講師による講演「農業機械と農作業の安全対策について」、株式会社マキタ和歌山営業所の真鍋所長による講演「色々な電動工具紹介と安全な使い方」と電動工具の展示が行われた。また、当課から奥野普及指導員が「農作業における熱中症対策」について、鳥居副主任が「小動物の鳥獣害対策」について、それぞれ情報提供を行った。

研修会には 22 名が参加し、「改めて農作業における安全対策の重要性を確認できた」や「身近なマキタの電動工具について知見が深まり、大変勉強になった」などの声が聞かれた。

2. クビアカツヤカミキリの悉皆調査を実施

バラ科の果樹に甚大な被害を与える特定外来生物クビアカツヤカミキリが令和 8 年 7 月 1 日に紀美野町内では初めて確認されたところだが、7 月 27 日には同町の野上地域でも新たに発生が確認された。これを受け、8 月 3 日に、農業水産振興課、林務課、海南保健所衛生環境課、紀美野町役場及び和歌山県農業協同組合ながみね地域本部が、野上地域の被害発生樹から半径 1km 範囲内のウメ、サクラなどのバラ科樹木の悉皆調査を実施した。その結果、新たにウメ 1 本で被害が確認された。

今後、紀美野町の広報誌や資料の配布等により啓発を行い、地域住民の理解の醸成を促すとともに、関係機関が一丸となり、被害の拡大抑制のために調査を継続する。



被害発生樹の調査



被害発生樹への薬剤注入

3. 海南市下津町農業士会が県外研修会を開催

～おいしいみかんづくりのために～

8月20日、海南市下津町農業士会(会長：山下雅史氏、会員13名)が県外研修を実施し、常においしいみかんづくりを追求するみかん生産者5名が参加した。研修は、今後のみかんづくりに生かすため、兵庫県尼崎市の大和肥料株式会社(以下、大和肥料)と神戸市北区の麒麟ビール神戸工場(以下、麒麟ビール)を訪ねた。大和肥料では有機肥料の説明を受け、肥料の製造施設を見学した。参加者は、みかんの樹が吸収する窒素の形態によって、果実への糖集積が異なるとの説明に驚いていた。さらに、有機肥料を使って生産した野菜等で調理したランチを食べながら意見交換を行った。参加者と大和肥料の間で、肥料製品等への要望を伝えたり、肥料に関するアドバイスを頂いたりできる関係性が出来た。

一方、麒麟ビールではビール材料の二条大麦の試食やホップのアロマ体験を行い、発酵前の麦汁をテイastingした。素材の甘さや旨さ、芳醇な香りに参加者は驚いていた。この後、生産ラインで商品が次々とパッケージングされ出荷される模様を見学した。

訪ねた企業は食品づくりに対する立場やアプローチは異なっていたが、おいしさへのあくなき追求という点では共通している。多様なおいしさへのこだわりを知ることで、今後のおいしいみかんづくりに役立つと思われた。



有機肥料製品の説明を受ける参加者



1番絞り麦汁をテイastingする様子

4. 夏いちご生産農家への巡回指導の実施

8月4日、県内で初めてアクアポニックスを利用して夏季のいちご生産に取り組む和歌山市内の農業者に対して巡回指導を行った。アクアポニックスとは、魚の排泄物をバクテリアが分解し、植物がそれを栄養として吸収して生育する養殖と水耕栽培を掛け合わせたシステムで、環境負荷が少ない農業の形だと言われている。本システムを活用する農業者は、夏季に閉鎖型の環境にて、県オリジナル品種である‘まりひめ’の生産、販売に取り組んでいる。

農業水産振興課では、このような新規の取組みを応援するとともに、いちごの栽培に関しては、継続的な伴走支援を行っていく。



いちご栽培ほ場での指導

Ⅱ 那賀振興局

1. 農作業安全研修会を開催

8月5日、農業水産振興課の主催により、新規就農者及び4Hクラブ会員を対象にした農作業安全に関するアグリビギナー研修会を開催した。

研修では、熱中症対策及び農業機械作業に潜む危険性について説明を行った後、VR機器を用いた農作業事故の体験学習を実施した。このVRコンテンツは、JA共済連と農研機構が共同開発したもので、農作業中の事故の発生状況や事故を防ぐための改善点を、臨場感のある映像で疑似体験することができる。

参加者からは、「VR機器を使用した研修は初めてで新鮮だった」、「実際に事故現場にいるような臨場感があり、農作業事故について改めて考える良い機会になった」といった感想が寄せられた。参加者の農作業安全に対する意識向上につながる有意義な研修であった。



VR 機器の映像を体験する参加者

2. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会を開催

8月17日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）が、「リジェネラティブ（大地再生）」農業について学ぶため、映画『君の根は。大地再生にいのちをまかせ』の観賞研修会を開催し、20名が参加した。

はじめに、株式会社ハートランドの瀬尾氏から、映画の見所や登場人物について簡単な紹介があり、その後「リジェネラティブ（大地再生）」という世界観や生き方そのものを転換して、農業・漁業・牧畜に取り組んでいる人々のドキュメンタリー映画を鑑賞した。

映画鑑賞後に5STAR MARCHEの松岡氏から、北海道で大地再生農業に取り組んでいるレイモンド・エップ氏の事例が紹介された。

参加者からは、不耕起やカバークロップの方法について、質問があがった。



映画を鑑賞する参加者

Ⅲ 伊都振興局

重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

1-1. ～農業技術講習会（野菜コース第2回）の開催～

8月6日、農業水産振興課は、就農意欲があり基礎技術を習得したい方を対象に、技術・経営力向上を図るため、野菜コース第2回の栽培技術講習会を開催し、6名が受講した。

当課の山口副主査が秋冬野菜の栽培管理について、柏本副主査が農作業安全および病害虫の発生状況について、それぞれ説明した。その後、屋外で秋冬野菜の播種および鉢上げの実習を行った。実習で用いたキャベツ、レタスおよびブロッコリーの苗は、講義で学んだ管理方法を参考に、各自の園地で栽培する予定である。

受講者からは、土壌消毒の方法や連作障害への対策について質問があった。また、前回の実習で用いた接ぎ木苗の各自の園地での生育状況などについて、意見交換を行った。



秋冬野菜の栽培に関する講義



播種と鉢上げの実演

1-2. ～農業技術講習会（果樹コース第4回）の開催～

8月26日、野菜コースと同様に、果樹コース第4回の栽培技術講習会を開催し、6名が受講した。

はじめに、当課の津田普及指導員からかきの樹上脱渋と収穫等について、柏本副主査から病害虫対策とチュウゴクアミガサハゴロモについてそれぞれ説明した。その後、九度山町のかき園地に移動し、津田普及指導員が樹上脱渋とシルバーマルチ敷設の実演を行い、受講者各自が作業を行った。受講者からは樹上脱渋後に袋を切る理由やシルバーマルチが収穫期や日焼けなどに及ぼす影響について質問があった。



樹上脱渋や収穫等に関する講義



樹上脱渋の実演

Ⅳ 有田振興局

1. 令和8年度アグリビギナー・有田農業女子プロジェクト合同研修会(みかんの仕上げ摘果研修)を開催

8月24日、農業水産振興課は新規就農者（就農5年以内）、有田農業女子及び有田地方4Hクラブを対象としたアグリビギナー・有田農業女子プロジェクト合同研修会を有田中央高校ほ場で開催し、11名の農業者が出席した。

まず、「匠の技 伝道師」である佐原洋一氏に、みかんの仕上げ摘果の講義と実演を行っていただいた。特に今年は、降雨が極端に少なく、高温乾燥により日焼け果が発生しやすい状態であるため、日焼け果を出さない工夫や、葉果比を意識した摘果など、今の気象に合った作業を中心に説明していただいた。その後、参加者は佐原氏の指導の下、意見交換しながら仕上げ摘果を実践した。

参加者からは「なぜその実を摘果するのか、理由を具体的に説明しながら実演してくださったので、とても分かりやすかった。自園でも、講師の考え方を参考にしながら、仕上げ作業を進めたい」と感想が聞かれた。



仕上げ摘果の実演を行う佐原氏



講師の指導を受けて摘果作業を進める参加者ら

V 日高振興局

1. 日高地方4Hクラブ連絡協議会がニューファーマーズ激励会・スポーツ大会・交流会を開催

8月3日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：村上弘樹氏）は、「ニューファーマーズ激励会・スポーツ大会・交流会」を東宝ボウル（御坊市）で開催し、クラブ員11名および新入クラブ員と新規就農者3名の計14名が出席した。

激励会では、村上会長から新入クラブ員と新規就農者へ向けて、4Hクラブの概要説明と激励の言葉が送られた。その後、出席者全員が自己紹介を行い、今後の農業に対する抱負を述べた。スポーツ大会と交流会は、有田地方4Hクラブ連絡協議会（会長：竹本昇平氏、参加者13名）と合同でボウリングを行って交流を深めた。

新規就農者からは、「同年代の農業者と交流する良い機会だった。今後は技術習得研修会にも積極的に参加したい」との前向きな感想が聞かれた。



ニューファーマーズ激励会



スポーツ大会（ボウリング）・交流会

2. 印南町農業士会が研修会を開催

8月6日、印南町農業士会（会長：堀 孝臣氏）は、印南町防災福祉センターにおいて研修会を開催し、会員8名、関係者3名の計11名が出席した。

今年度の研修会は、近年現場で問題となっているコナジラミ類、ハダニ類、果樹カメムシ類等の害虫対策や県試験研究機関での取組を学ぶことを目的とし、県農業試験場の木村研究員から施設栽培における害虫対策について、県農業試験場暖地園芸センターの川西主任研究員から暖地園芸センターの試験研究についての講義を受けた。また、農業水産振興課の下主査が果樹カメムシ対策について説明を行った。

講義終了後、出席した農業士から、タバココナジラミの生態やスターチスの赤葉症状の発生要因等についての質問や意見があり、「実際に試験研究を行っている研究員と意見交換ができて有意義な研修であった」等の感想が聞かれた。



害虫対策の説明をする農業試験場の木村研究員

3. クビアカツヤカミキリ防除対策研修会を開催

8月10日、農業水産振興課は、JAわかやま紀州地域本部と共催で「クビアカツヤカミキリ防除対策研修会」を御坊市のうめ園地にて3部構成で開催し、管内生産者や関係者など計31名が参加した。

研修会では綱木普及指導員が、クビアカツヤカミキリのフラス（幼虫の排泄物と木くずが混ざったもの）の発見方法や幼虫の掘り取り方法について、マニュアル等を用いて説明したあと、掘り取りの実演を行った。参加者からは、フラスの見分け方等について質問があった。

クビアカツヤカミキリの被害拡大を防ぐためには、早期発見が重要であり、被害の初期段階で幼虫の掘り取りやネット被覆のほか、夏期の薬剤散布や伐採・伐根などの対策を組み合わせる必要がある。

当課では、引き続き、関係機関と協力しながら防除対策指導を強化していく。



フラスの発見方法を確認する参加者

4. JA ピーマン部会天敵利用報告会で調査結果を報告

8月25日、JAわかやま紀州地域本部ピーマン部会（部会長：小森 要氏）は、天敵利用報告会を野口コミュニティセンター（御坊市）にて開催し、農業水産振興課の伊藤普及指導員と村中技師が令和7年作における天敵利用の取り組みと調査結果を報告した。

同部会では、令和5年から振興局とJAが協力して天敵利用の普及を図っており、令和7年作では、部会員13名中11名がコナジラミ類、アザミウマ類の防除に天敵を利用した。このうち9名は天敵製剤のスワルスキーカブリダニと土着天敵のタバコカスミカメを併用していた。いずれのほ場でも放飼した天敵が定着し、害虫を低密度に抑え、被害果率も概ね10%以下であった。また、近年発生が拡大しているクロテンコナカイガラムシ対策として、ヒメカメノコテントウも1ほ場で試験導入し、ほ場内への定着を確認した。

これまでの調査から、安定した防除効果を得るには
①害虫の密度が低い段階で十分量を放飼すること、
②複数の天敵を併用して補完しあって働くようにすること、がポイントであると考えられた。

部会員からは、微小害虫への効果を実感し、継続する意欲が示された一方、天敵利用に即した薬剤防除や天敵温存植物であるクレオメの管理に関する課題が出された。



ピーマンハウスにおける現地調査

VI 西牟婁振興局

1. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が扇ヶ浜にて梅干し・うめラッシーPRイベントを共催

西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：立花竜樹氏）は7月18日、8月2日、11日に、田辺観光協会、梅振興協議会との共催で、田辺市の扇ヶ浜において、梅干しのPR及びうめラッシー、梅ジュースの無料配布イベントを実施した。このイベントは、うめの魅力をより多くの人に周知するとともに、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」をPRすることを目的とし、令和5年から実施されている。

今年度は、うめラッシーに加え、梅シロップを水や炭酸水で割った梅ジュースも用意した。西牟婁4Hクラブ連絡協議会からは9名が参加し、来場者にうめラッシー、梅ジュースを提供したほか、うめラッシーや梅シロップの作り方等が書かれたチラシの配布を行った。3日間で、うめラッシー約120杯、梅ジュース約500杯、梅干し約15kg（750個）を配布した。

来場者からは、「おいしかったので家でも作ってみたい。梅シロップはどこで買えるのか」、「うめラッシーを初めて知った。梅干しは苦手だが、これならおいしく飲めそう」といった声が聞かれた。県外からの観光客も多く訪れる扇ヶ浜でイベントを開催したことで、県内外の幅広い世代に梅の魅力をPRすることができた。特に、うめラッシーや梅ジュースといったうめを手軽に楽しめる方法を提案することで、梅干しが苦手な人や、うめに親しみのない人にも関心をもってもらえるきっかけを作ることができた。

当課では、今後も西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会の活動を支援していく。



うめラッシー、梅ジュース配布の様子



イベントを行うクラブ員

2. 西牟婁の郷土料理教室を開催

8月19日、農業水産振興課は田辺市民活動センターで「西牟婁の郷土料理教室」を開催した。本イベントは、一般消費者に西牟婁地域の郷土食材、特に山菜のイタドリへの関心を高めてもらい、家庭等での消費促進を目的として企画したもので、講師は、中辺路町生活研究グループ連絡協議会（会長：森川敏子氏）及び田辺生活研究グループ連絡協議会（会長：坂本陽子氏）の和歌山南漁業協同組合女性部湊浦支部が務めた。

当日は、小学生から70歳代までの一般参加者、講師、当課職員合わせて22名が出席し、イタドリのサラダ巻、地魚（アジ）とイタドリの寄せ揚げ及びイタドリジャムでいただくフルーツ寒天の3品を調理した。

生駒普及指導員及び武田水産業普及指導員からイタドリと西牟婁地域で採れる魚の概要や、食品の栄養に関する説明を行った後、講師がアジのさばき方を実演し、各自調理に取りかかった。参加者は、食材の切り方等の不明点を講師に質問しつつ調理を進め、仕上がった料理を試食した。

イタドリを毎年食べる人も初めて食べる人もいたが、アンケートでは、いずれの料理も75%以上の参加者がおいしかったと回答していた。また、イタドリは、食材の相性を問わず様々な調理に使える一方、下ごしらえの負担が大きいとの評価であった。

当課では、山間部の農業振興としてイタドリの栽培・流通支援に取り組んでおり、引き続き支援を継続していく。



調理を行う参加者



できあがった料理

3. いちご炭そ病防除対策研修会を開催

8月5日、農業水産振興課は、いちご炭そ病防除対策研修会を振興局にて開催し、管内の生産者9名が出席した。研修会では、農業試験場の菱池主任研究員から、炭そ病の症状や、伝染経路について説明があった。また、健全な親株や秋ランナーを活用して苗増殖を行うことや、雨よけ栽培の実施、発病株や周辺雑草の除去が有効であると説明があった。

その後、同試験場の高垣副主査研究員から、いちごに関する試験内容や成果に関する情報提供があった。出席者からは、「今年も既に炭そ病が発生しているが、今からできる対策はどんな事があるか」、「太陽熱消毒は炭そ病に対してどのくらい効果があるのか」等の質問があった。今後もいちご栽培時の病虫害防除対策について、継続的に啓発していく。



講師の説明を熱心に聴く参加者

Ⅶ 東牟婁振興局

1. サツマイモ「なんたん蜜姫」ほ場の巡回調査を実施

なんたん蜜姫はＪＡわかやまが商標登録しているサツマイモで、果肉は鮮やかな黄色をしており、高糖度かつ、しっとりとした食感などが特徴で、県外からの需要もある。

８月１８日、生産者３名、ＪＡわかやま職員３名、当課３名が串本町潮岬および古座川町の計５か所のなんたん蜜姫ほ場を巡回し、生育状況等の調査を行った。

結果、去年に比べて生育が悪いことが確認され、その原因として、つる割病と思われる病害の発生や定植後の少雨などが挙げられた。また、イノシシによる食害も甚大であり、それにより収穫を迎えることができずに全滅したほ場もあった。

今後はそれらに対策を講じて生産性を向上し、需要に応えることが重要である。



生育状況の調査

2. MYNS 営農組合(マインズ)が稲刈り体験を開催

８月２７日、近畿大学附属新宮中学校の１年生５４名は、MYNS 営農組合（会長：下阪殖保氏）及びＪＡわかやまみくまの地域本部、農業水産振興課の指導のもと、稲刈りを体験した。この日に収穫した稲は、同校生徒が本年の４月２４日に田植えたものである。

当課の面矢技師が水稻の生長過程や稲刈りから白米になるまでの作業内容、お茶碗１杯の米の量について生徒に説明した。また、下阪会長は「お米をよりおいしく感じる方法は感謝すること」と生産者としての気持ちを伝えていた。

その後、生徒は、ＪＡの営農指導員から稲刈りでの鎌の使い方等の説明を受け、実際に稲を鎌で刈り取り、その束をコンバイン（脱穀機）で脱穀する作業を体験した。さらに倉庫内では、粳を乾燥させ出荷する際の袋詰めまでの一連の流れを見学した。

この日収穫した米は「近中米」として同校の保護者を中心に販売される予定である。



面矢技師による説明



脱穀作業を体験する参加者

VIII 農林大学校

1. 【わかやま農業教育一貫プロジェクト】

～卒業研究に取り組む学生が県研究機関を訪問～

8月19日、農林大学校は、「わかやま農業教育一貫プロジェクト（※）」の一環として、当該プロジェクトに取り組む1年生と担当教員とともに果樹試験場かき・もも研究所を訪問した。今回の訪問については、研究員の方々と直接対話することで学生自身の卒業研究に対して農林大学校とは異なる視点からのアドバイスを得ることを目的としている。

卒業研究では、同研究所で育成された甘柿「紀州てまり」を研究対象として、着果位置が果実肥大や品質に及ぼす影響について複数年度にわたる調査・研究を計画している。本学生が研究員に高校での調査・研究の成果を示すとともに、農林大学校での卒業研究の内容について説明し、アドバイスを受けた。また、研究所内の試験樹を見ながらの実地指導を受けた。

本学生は高校在籍時と入学した本年4月に同研究所を訪問した事はあったが、研究員と相対してじっくりと話をする機会は無かった。今回の訪問で、少し異なる切り口からの専門的かつ実践的なアドバイスをいただくことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。また、研究員からは今回の訪問を契機に卒業研究に関して相談に応じると話して頂いた。

訪問を終えた学生からは、「貴重な「紀州てまり」の原木を見ることができて良かった」、「研究所での試験内容を知ることができた」、「頂いたアドバイスを今後の卒業研究に活かしたい」といった感想が聞かれた。

農林大学校としては、今後もこういった機会を増やすことで、プロジェクトに取り組む学生がより高い視座を持ち、卒業研究の充実・深化に繋げる事を期待している。

※わかやま農業教育一貫プロジェクト

和歌山県内の農業系高校と県農林大学校での継続した5年一貫教育により、農業に関してより実践的で専門性の高い技術・知識を身につけた地域を支える人材を育成するプロジェクト。

現在、第一期生（令和7年度入学）の4名（果樹コース：3名、野菜コース1名）と第二期生（令和8年度入学）の1名（果樹コース：1名）の計5名が実施。



研究員との意見交換



試験樹の見学

IX 農林大学校就農支援センター

1. 令和 8 年度ウイークエンド農業塾農業入門コース(第 2 班)開講

8 月 22 日、週末を利用して農業の初歩的な知識や技術を学ぶ「ウイークエンド農業塾農業入門コース（第 2 班）」が開講し、県内外から 16 名が参加した。開講式では、福居所長が「短い期間ですが実りある研修になりますように」とエールを送り、続いて研修生が自己紹介を行い「家庭菜園でうまく作れるよう技術を学びたい」、「農業の基礎を学びたい」など抱負を語った。

その後、午前中は「和歌山県農業の概要」、「農機具の構造とメンテナンス」の講義、午後は刈払い機や動力噴霧器等農業機械の取り扱い方やメンテナンスの方法について実習した。

今後、参加者は、11 月 15 日までの計 10 日間で果樹、野菜及び花きの栽培方法等の基礎知識を学ぶ。



開講式



農業機械の取り扱い方を学ぶ参加者

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489